

NODA Hiroji 1981 -2011

新

THE
NATIONAL
ART CENTER,
TOKYO
国立新美術館

野田裕示 国立新美術館開館5周年 絵画のかたち／絵画の姿

2012 | 1.18 wed.—4.2 mon.
国立新美術館 企画展示室2E

毎週火曜日休館 ただし3月20日(火)は開館、翌21日(水)は休館
開館時間=10:00-18:00 毎週金曜日は20:00、3月24日(土)は22:00まで開館
*入場は閉館の30分前まで
主催=国立新美術館

《WORK 1536》2003年 | アクリル、綿布、カンヴァス



企画概要

野田裕示(のだ・ひろじ/1952年 和歌山県生まれ)は、多摩美術大学を卒業した翌1977年には、南画廊の最年少作家として個展が開催されるなど、早くから才能を認められた画家です。しかし、80年代初頭より絵画の新しい可能性を求め、様々な模索を始めました。本展は、以来30年に及ぶ画家の取り組みを、進化を重ねる中で生まれてきた約140点の作品によって概観し、その試みが、日本のアートシーンの中でどのような成果をもたらしたのかを検証するものです。

野田の絵画の本質を問う作業は、一種のレリーフ作品ともいえる箱状の造形によって始まりました。続く80年代半ばにはそれが発展し、支持体を袋状に覆う独自の絵画スタイルが登場します。さらに90年代は、カンヴァスを縫い合わせ、折り返し重ねる手法によって深化が図られますが、2000年を迎える頃には、下地は徐々に平滑になり、独特の形象が自在に描かれる画面へと変貌していきました。そして近年の、特定のテーマによる連作や、組み合わせを意識した作品は、展示の有り様を重視する傾向へと進んでいます。

野田は、これまでも活発に発表活動を行ってきた作家の一人ではありますが、その初期から現在までを見通す機会はほとんどありませんでした。作家が自身の造形思考をどのように深め、作品化してきたかを確認することは待望されたものであり、さらにこの展覧が、一人の優れた作家の足跡を辿ることに留まらず、今後の絵画の行く末に思いを馳せる機会となることを願うものです。

展覧会の見どころ

◆東京初のまとまった個展

1970年代後半から現在に至るまで、精力的に作品を発表している野田ですが、1995年に和歌山県立近代美術館で個展が開催されて以来、彼の創作活動を概観するような展覧会は開催されていません。本展覧会は、その後の展開を含めた、初期から現在に至る30年間の活動を展望する個展となります。

◆初期の代表作から新作までを出品

野田の初期の代表作《WORK 179》(1983年)は、ギャラリーホワイトアートで発表された後、郷里の御坊市民文化会館の2階ロビーに常設展示され、今日に至っています。平成12年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した《WORK 1316》(2000年、新潟市美術館蔵)や本展のために描かれた新作《WORK 1766》までを展示します。

◆作品と関連するドローイングの展示、制作風景を映像化

本展覧会では、野田の創作活動の過程を示すべく、今まで公開されたことのないドローイングも併せて展示します。また、どのようなプロセスを経て制作されるのか、新作の制作風景を映像に収め公開します。

◆彫刻家・岡本敦生とのコラボレーション作品を展示

平面絵画を追求してきた野田ですが、彫刻家・岡本敦生(1951〜)と三度にわたり共同制作を行っています(1996、2000、2004年)。二人はその後、2005年の「第21回現代日本彫刻展」(宇部市)にも招待出品し、毎日新聞社賞(第3席)を受賞しています。本展覧会では、旧友でもある岡本との息の合ったコラボレーション作品を特別展示し、個人の作品とは異なる側面をご紹介します。

◆充実したカタログ

出品作品140点に加え、ドローイング、さらに岡本とのコラボレーションをカラー図版で掲載。また、1981年から2011年までの野田の創作活動が概観できるようなテキストを収録するとともに、過去の主要な論評を一部抜粋し掲載します。野田のこれまでの歩みについて、理解を深めるための良い手引書となるでしょう。

◆多彩な関連イベント

作家本人によるアーティスト・トークの他、彼の20代を知る美術関係者、批評記事を多く手がけたジャーナリストによる講演会を予定しています。彼らの証言は、当時の現代美術の状況を伝える貴重な機会ともなるはずです。また、現代美術家の開発好明(かいはつ・よしあき)や富田菜摘(とみた・なつみ)とのワークショップを予定しています。

第1部

1980年代——絵画の可能性への試み [約30点]

作家の新しい取り組みは、一種のレリーフ作品ともいえる箱状の造形によって始まっています。それらは箱形に囲われた支持体の中に、木や布、竹、針金などを様々に取り付けたものでした。制作の背景には、絵画を成り立たせている構造への興味と、平面の表現に対する真摯な問いかけがあったものと想像します。80年代半ばからは、支持体に打ち付けた木片や、逆に穿たれた溝を、袋状のカンヴァスによって覆う仕事が現れ、今日の野田裕示の絵画スタイルの萌芽が見て取れます。



《WORK 147》1982年 | アクリル、綿布、紙、木、ボード



《WORK 299》1987年 | アクリル、木、カンヴァス | 和歌山県立近代美術館蔵

第2部

1990年代——独自の様式の確立と展開 [約40点]

90年代に入ると、画面の凹凸は小さくなり、作家の持ち味である重層的な構造と形象は、カンヴァスを縫合したり、折り返し重ねることによって作られるようになります。この時期の多彩な展開は、野田の画家としての幅を思わせるもので、形や配色、テクスチャーに様々な試みがなされました。作家の代表作として各地の美術館に所蔵される作品の多くは、この時期に手がけられています。



《WORK 639》1991年 | アクリル、綿布、カンヴァス



《WORK 580》1990年 | アクリル、カンヴァス

第3部

2000年代——さらなる可能性を求めて [約70点]

日本のアートシーンの中に一定の地歩を得た野田の新しい展開は90年代後半に訪れ、改めて描くという行為が次の局面を導き出しました。これまでカンヴァスを重ねることによって作られてきた下地は、徐々に平滑になり、画面は自在なストロークによる有機的な形象に占められるようになります。芸術選奨新人賞を受賞したのはその時期で、さらに発表の機会毎に特定のテーマが設定され、組み合わせを意識した作品はモニュメンタルな傾向を帯び、展示の有り様を重視する方向に進んでいます。



《WORK 1422》2001年 | アクリル、綿布、カンヴァス



《WORK 1666》2006年 | アクリル、綿布、カンヴァス



《WORK 1316》2000年 | アクリル、綿布、カンヴァス | 新潟市美術館蔵 芸術選奨文部科学大臣新人賞 受賞作品



彫刻家・岡本敦生とのコラボレーションによる立体作品 [17点] を特別展示する他、ドローイング [60点] も併せて展示します。

岡本敦生とのコラボレーション

《Collaboration 1996 O&N-I》(左) 1996年 | 愛知県美術館蔵

《Collaboration 1996 O&N-II》(右) 1996年 | 愛知県美術館蔵

撮影：岡本敦生

NODA Hiroji 1981-2011

関連イベント(予定)

■講演会&アーティスト・トーク

- ①1月21日(土) 「自作を語る」野田裕示
- ②2月4日(土) 「南画廊と野田裕示」林 牧人
(森美術館 管理運営グループ ファシリティー・マネージャー)
- ③3月2日(金) 対談: 野田裕示×福永 治(当館副館長・当展企画者)
- ④3月17日(土) 「美術批評と野田裕示」三田晴夫(美術ジャーナリスト)

時間: ①②④は14:00-15:30 ③は18:30-19:30

会場: 国立新美術館3階講堂 定員: 250名(先着順)

聴講無料ですが、本展観覧券(半券可)の提示が必要です。

■ワークショップ

- 2月18日(土) 講師: 富田菜摘(現代美術家)、野田裕示
- 3月24日(土) 講師: 開発好明(現代美術家)、野田裕示

参加には事前に申し込みが必要です。

*各イベントの日時や内容は変更される場合があります。詳細やその他関連イベント等最新の情報については、当館のホームページをご覧ください。



野田裕示 略歴

1952 和歌山県御坊市に生まれる
1976 多摩美術大学絵画学科油画専攻 卒業
1988-1993 多摩美術大学絵画学科油画専攻 非常勤講師
1990 和歌山県文化奨励賞
1999-2004 東北芸術工科大学美術科洋画専攻 非常勤講師
2001 平成12年度第51回芸術選奨文部科学大臣新人賞
2001 御坊市文化賞
2003- 多摩美術大学絵画学科油画専攻 教授
2005 第21回現代日本彫刻展 毎日新聞社賞(岡本敦生との
コラボレーション)

主な展覧会

- 1977 「野田裕示展」南画廊(東京)
- 1983 「野田裕示展」ギャラリーホワイトアート(東京)
- 1985 「野田裕示展」ギャラリーユマニテ東京
(以後、同画廊で継続的に発表)
- 1987 「第18回現代日本美術展 企画部門[現代絵画の展覧
—平面と空間]」東京都美術館、京都市美術館、
北九州市立美術館、宮城県美術館
- 1988 「現代日本美術の動勢—絵画 PART2」展
富山県立近代美術館
- 1995 「野田裕示近作展—絵画の原風景をもとめて」
和歌山県立近代美術館

観覧料

当日: 一般1,000円/大学生500円

前売: 一般 800円/大学生300円

団体: 一般 800円/大学生300円

- * 高校生、18歳未満の方、および障害者手帳をご持参の方(付添の方1名を含む)は無料
- * 1月21日(土)は国立新美術館開館5周年を記念し入場無料。3月24日(土)は「六本木アートナイト2012」開催にともない入場無料
- * 団体券は会場のみで販売[20名以上に適用]
- * 会期中に当館で開催中の他の企画展および公募展のチケット、またはサントリー美術館、森美術館(六本木アート・トライアングル)で開催中の展覧会チケット(半券可)を提示された方は、団体料金が適用されます
- * 前売券および当日券は、チケットぴあ(Pコード:764-585)、ローソンチケット(Lコード:37283)でも取り扱っています[手数料がかかる場合があります]
- * 前売券は2011年10月19日(水)から2012年1月17日(火)まで販売[ただし会場販売は1月16日(月)まで]
- * 開催情報は変更となる場合があります。最新情報はハローダイヤル、当館ホームページでご確認ください

■報道関係のお問い合わせ

国立新美術館 広報担当: 滝沢、石松、窪田

Tel: 03-6812-9925 Fax: 03-3405-2532 E-mail: pr@nact.jp

新 THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO

国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

TEL: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

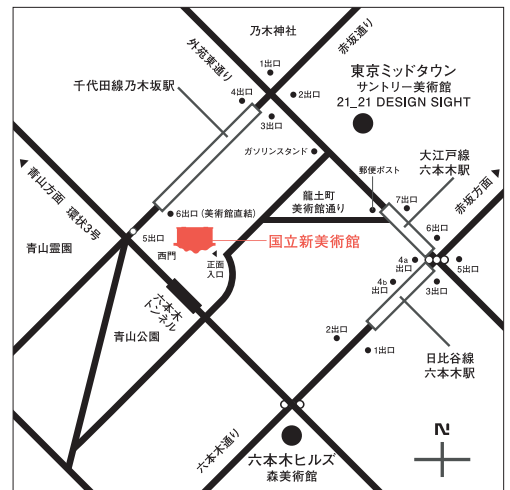
URL: <http://www.nact.jp/>

アクセス:

東京メトロ千代田線 乃木坂駅 青山霊園方面改札6出口(美術館直結)

東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a出口から徒歩5分

都営地下鉄大江戸線 六本木駅 7出口から徒歩4分





10
 《WORK 1316》 WORK 1316
 2000年 2000
 227.3×687.8 cm 227.3 × 687.8 cm
 新潟市美術館蔵 Niigata City Art Museum



12
 《WORK 1536》 WORK 1536
 2003年 2003
 181.8×259.1 cm 181.8 × 259.1 cm



11
 《WORK 1422》 WORK 1422
 2001年 2001
 227.3×545.4 cm 227.3 × 545.4 cm



14
 《WORK 1666》 WORK 1666
 2006年 2006
 227.3×162.1 cm 227.3 × 162.1 cm



13
 《WORK 1620》～《WORK 1625》 WORK 1620 – WORK 1625
 2004年 2004
 116.7×436.2 cm (6点1組) 116.7 × 436.2 cm (6 pieces)



15
 岡本敦生、野田裕示 OKAMOTO Atsuo,
 《Collaboration 1996 NODA Hiroji
 O&N-I》(左) Collaboration 1996
 《Collaboration 1996 O&N-II》(右) O&N-I (left)
 1996年 Collaboration 1996
 83.0×200.0×54.0 cm / O&N-II (right)
 76.0×200.0×52.0 cm 1996
 愛知県美術館蔵 83.0 × 200.0 × 54.0 cm /
 撮影：岡本敦生 Aichi Prefectural Museum of Art
 Photo: OKAMOTO Atsuo

「野田裕示 絵画のかたち/絵画の姿」
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

国立新美術館 広報担当 行

Fax: 03-3405-2532 E-mail: pr@nact.jp

■画像データ申し込み(ご希望のデータの番号にチェックをつけてください)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

■プレゼント用招待券申し込み(ご希望の場合はチェックをつけてください)

10組20枚を希望します

*発送は12月初旬を予定しております。チケット発送先となるご住所をご記入ください。

〒

貴社名:

媒体名:

ご担当者名:

TEL:

FAX:

E-mail:

画像到着希望日:

月

日

時ごろ

掲載予定日/コーナー名:

◎写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用目的は、本展のご紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。
- * 写真掲載にあたっては、[記載クレジット]全文(日英どちらか一方)を表記してください。(広報用画像データ一覧参照)
- * トリミングおよび文字のせはできませんのでご了承ください。
- * 基本情報確認のためゲラ刷り・原稿の段階で下記の広報担当までファックスまたは E-Mailにてお送りください。
- * 掲載紙・誌等を必ず広報担当までご送付いただきますようお願い致します。
またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願い致します。

報道関係のお問い合わせ:

国立新美術館 広報担当 滝沢、石松、窪田

Tel: 03-6812-9925 Fax: 03-3405-2532 E-mail: pr@nact.jp